



★ 営農ウィークリーNEWS ★

「京おくら」「京都茄子」販売促進会

京都ポルタ「みのりカフェ前」にて

経済部営農販売課では、8月23日、京都駅地下街京都ポルタのみのりカフェ前で出荷最盛期を迎えた「京都茄子」「京おくら」のPR販売を行いました。

今回は、8月2日に開催した同様のPR販売が来場者に好評であったことや、同地下街にある全農京都が運営する飲食店「みのりダイニング」で期間限定メニューが展開されており、合わせてPR活動が行われました。



また、光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科との地域連携活動の一環で、学生さんが考案した「京おくら」のオリジナルレシピなどを学生が自ら、消費者へ食べ方などを提案するなど、職員とともに地域の魅力から食べ方の提案を行いながらPR販売を行いました。「京都茄子」と「京おくら」は、1本から購入できるバラ売りも人気を集めました。



1本から購入できるバラ売りも人気を集めました。

—TAC information—

酒造用原料用米「京の輝き」の生育調査



8月22日、経済部営農販売課では、京都市の最北端地域となる左京区久多地域で出穂期を迎える京都限定の酒造用原料米「京の輝き」栽培ほ場で生育調査を行いました。

今年は、梅雨入りが遅かったことや降雨量過多と日照不足などの影響により一部「いもち病」も発生し、被害が心配されていましたが、生産者の懸命な管理作業などにより、一部のほ場を除き、順調に生育していました。



台風における通過後の技術対策について（抜粋）

1 水稻

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②成熟期に達し倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特に、キヌヒカリ、京の輝き等穂発芽しやすい品種には注意する。
- ③収穫までに日数がある場合は、倒伏した稲を無理に起こすことで、さらに被害を大きくする恐れがあるため穂を茎葉の上に乗せる。株際を調べ、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて、立て寄せてもよい。

2 豆類

- ①黒大豆・小豆では、倒伏して茎や莢が地面についていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤の散布を行う。
- ②浸冠水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病虫害防除を行う。特に、小豆については茎疫病の防除のため殺菌剤の散布を行う。

3 野菜、花き

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②液肥（500～1,000倍）を施用し、草勢の早期回復を図る。
- ③風雨による傷から病原菌が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除を行う。
- ④収穫可能なものは速やかに収穫し、また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直を行う。
- ⑤土砂の流入や作土の流出等の被害を受けた場合は、排水後、異物や被害作物等を片付けるとともに、土壌が固まらない程度に乾いたときに耕うんし、通気性を高め、以降に作付けする作物が安定して栽培できるように努める。
- ⑥ハウスが損壊した場合は、破れた被覆資材やハウス内の器具類が強風で飛ばされないように片付ける。

4 果樹

- ①落下した果実は、園外に持ち出して処理する。
- ②骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全に折れた場合は枝を固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ③冠水した場合は、速やかな排水に努める。

5 茶

- ①茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに、漂着物を除去する。
- ②強風で株元が緩んだ幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③土砂が流入した場合は速やかに取り除く、また、表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。
- ④製茶工場が浸水した後に、機械類に通電を再開する場合には、十分乾燥させた後、使用マニュアル等により手順や注意事項を確認するとともに、漏電やショートに留意した対応を行うこと。また、状況によってはメーカーによる点検を受けるとともに、ヘルメット等を着用して複数で作業をするなど、安全を確保する。

6 農作業機械及び獣害防除柵

- ①トラクター等の機械類が浸水した場合は、水が引いてもエンジンをかけずに、最寄りの販売店等へ相談する。
- ②獣害防除柵を点検し、倒木や落枝による破損や土砂の流出等による下部のスキ間を速やかに補修して、動物の侵入を防ぐ。